

問題文を読み取る (題意をつかむ)

幅が30cmの本立てに、
厚さ4cmの本を
立てていきます。
本は何冊立てられますか？

上記は子ども達に出された
問題文。子ども達は、
30÷4=7あまり2
線分図や絵を書きながら式
をノートに書き進めます。

「答えは何冊？」

教師の問いに

「7冊です」

「8冊だと思います」

「9冊です」

など、全5パターンの答えが
子供達から出てきました。

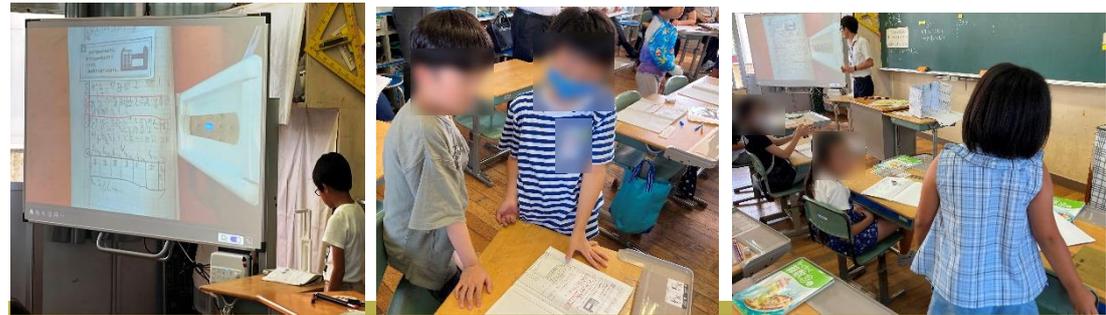
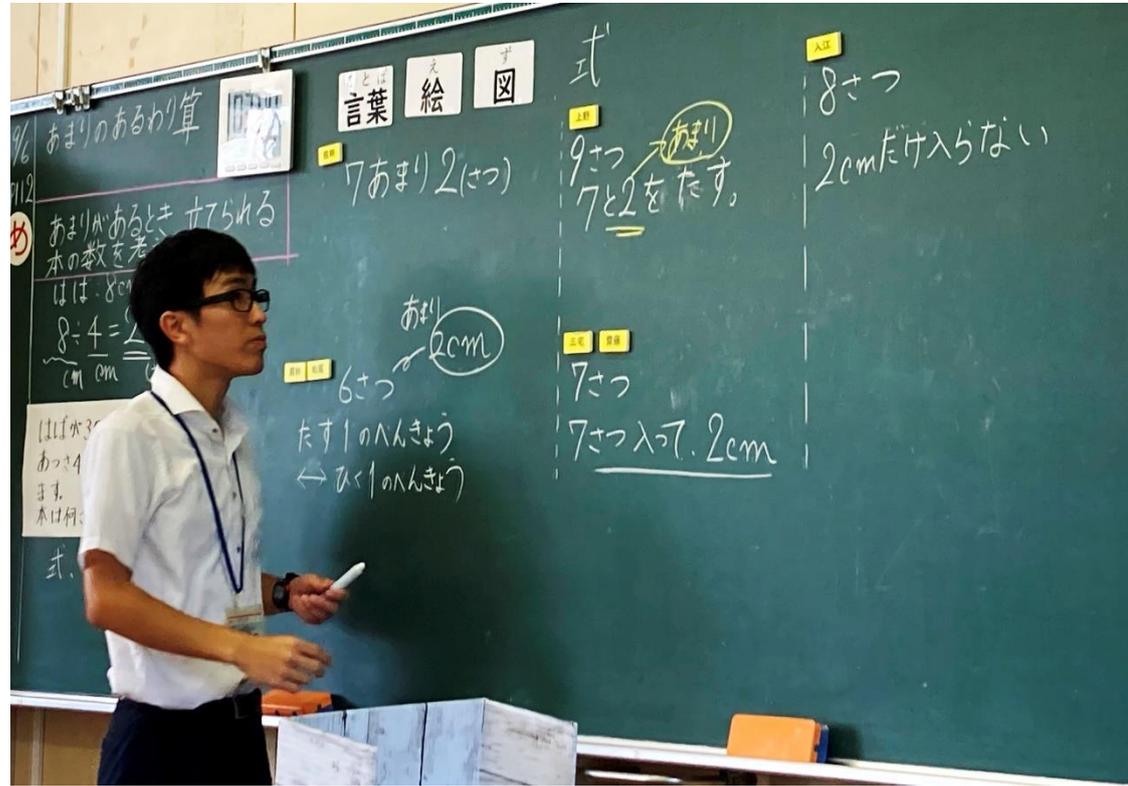
今回の授業で、着目させたい
ポイントは「あまり2」。
あまりは2冊なのか、2cmな
のか…

5パターンの答えの中で、どれ
が正解なのか、子供達は、理
由を出し合いながら一生懸命
考えます。
題意をつかめば、解るこの問
題。正解へと導くための教師
のコーディネート力が注目さ
れた授業となりました。

3年1組話題提供授業 算数科

「あまりのあるわり算」

場面に応じた余りの処理



子供の「あれ？どうして？」「おかしいぞ？」が生まれる授業をめざして

本校では、「授業の終末に児童につぶやかせたい言葉」を最初に考え、「一つの前提」二つの視点を基に、授業を展開しています。その二つの視点のひとつは「思考をゆさぶる発問・活動の設定」。

今回の授業では、子供のつぶやきから、どのような問いかけが良かったのか、「あれ？どうして？」「おかしいぞ？」と思考を深めるための教師の揺さぶりはどうすれば良かったのか、研究会の議論となりました。

教師の
コーディネート力を磨く

今回の授業では、子供達から思いがけない解答が出されました。誤答に気付いた子供が「あれ？おかしいぞ？」と言い合えるような対話が出てくる話し合い、解決できるような流れをつくるために、教師のコーディネート力を日々磨く必要があることを考えさせられました。誤答を活かすことが、子供の「問い」に沿った授業展開になることを私達教師が学ぶことのできた授業でした。